「失礼します　ラングレーです。」

ラングレー　正面遠くで呼びかけます

「指揮官っ大講堂の授業と演習、終わりましたよ

そちら作業はどうなっていますか？」

「苦戦してるようですし　内容が内容なら手伝いますがー」

「ちゃんと出来てて偉いですが　なににせよ

あまり無理はいけませんよ？」

「根を詰めてやれることはいいですが

逆に負担が大きくなって集中できなくなってしまっては本末てんt・・んっ・・

あなたという人は」

「ん！指揮官っ　このファイルの分は

このラングレー先生が責任を以て片しておきますから

今は休憩しましょう」

「ずぅとその態勢だったでしょ？
健康にわるいですわよ。」

「横になるだけでも　ちがいますし　ね？
と　な　り　はやく来てください。」

「よほど疲れていたんですね
体が疲れると心も荒んでしまいますから。」

「普段、貴方にはとくべつ厳しくてるつもりなのですが、
あくまでも心身共に健康な状態が前提なので　んっ」

「その　コホン・・いまはプライベートですし。別に業務でもありませんから　いつもと違って　すこしは、私も直に手を貸せるといいますか」

「ええとっ　ひざまくら　してみます？」

「え！　あっ　はい　どっどうぞ　んっ」

「言っておきますが、照れてませんからね

今日は先生の膝枕でちゃんとリラックスしてなさいっ」

「んっ　んんっ？　あなた　すこしいいですか？」

※といきがかかる距離になります

「んん～？」

「耳垢　溜まってますわね。

いい機会ですし耳かきしてみましょう。」

・距離を少し離して

「なんでって　疲れてるなら何かしらの癒しは必要でしょう。

それに「そういうの」好きなんでしょう？」

「耳かきは　たしかポーチにー

ありました。

では左耳からやっていきますね。」

「耳の周りからやっていきますが

痛かったら言ってくださいね？」

「はぅ　うっ　うんっ　んっ　んっ
だいじょう　ですか？
んっ　ふっ」

「ならよかった　です
あっ　ふっ　うん」

「んっ　ふっ　んんんっ　はぁ
なんですか？　顔が　近い？
もうっ　そう　言われたら
気にしちゃうじゃないですか」

「それに　んっ　みえないところも　あります　し
はぁ　んっ　んん」

「ふふっ　ほんとうに力抜けて　はぁ　あなたも　大変なんですね」

「いまは　プライベートですし　んっ　だれも
みていませんから。あんしんして
せんせーに　あまえてても　いいのですよ？」

「はい　おくに入れますよ。　じっとしててくださいね？」

「はぁ　んっ　んぅ　んぅ　ふっ　大丈夫そう　ですね

こうまじまじと　あなたの顔を見ることは　初めてですね

どこか新鮮です。」

「あんまり、耳かきはされたことなさそうなので

ここは女性が多い環境ですし、皆いい子達ですから

あなたには慣れてもらわないと

ほら　こまりますし」

「はぁ　んっ　っく　だんだんスッキリしてきているので

、じっとしてて下さいね？」

「　でも　所々産毛が　んっ

ちゃんと手入れして下さいね？」

「なんでしたら　私がしてもいいのですが　さすがに

そこまでプライベートには　入られたくはないでしょうし。」

「でも　だらけた習慣に困っているなら　先生に相談して下さい」

「はい。こっちの耳はおしまいです。
頭を私の方に向けて下さいねー」

「んっ　目は閉じてて下さい　さすがに私でも、
すこし恥ずかしいですから」

「では、やっていきますよーっ
はいっ　ちから抜いてくださいね」

・耳かきをするので距離を近くします。声を出さず囁きます。

「んっ　ふっ　んっ
ふふっ　よしよし
あなたはよく頑張ってますから
はいっ　いまは　しっかり
休んでくださいね」

「んっ　んっ　はぁ　あなたに甘えられるのも
ふぅ　ん　はぁ　悪くはない　ですわね」

「ん？　いつもの私と違うー　ですか」

「んっ」

「いつもは

ほら　私って　ユニオン最初の空母ですから」

「見本になるように　ちゃんと　しないといけませんし　いろいろ

ありましたから

それにです　こんなでも嬉しいんですよ。」

「初期型で戦力としては心もとないのに

大講堂だったり新しい子達に色々と教えれて　陣営は違いますが

お友達も出来ましたし。」

「それに　あなたの事も　こうやって　面倒をみれていますしね」

「ふふっ　私が素直に言うのは　以外ですか？」

「・・・あなたのお陰ですよ」

「耳かき　すこし忘れちゃってましたね

つづき　しましょうか」

「こっちはすくないですわね
では奥に入れますよ・・
んっ　しょ　っと　」

「すこし　抱き寄せる感じに　なってますが
我慢　してくださいね　んっ　くぅふっ　はぁ
んっ　んっ　」

「あっ　ん～　少し　お　く　に　ある　ので
んっ　うごかないで　くださいね」

「んっんー　はぁ　息苦しくはありませんか
むしろ　さっきより　リラックスしてますわね。」

「今のあなた　おっきな赤ちゃんみたいですよ
ふふっ
んんっ　私は心地いいですわよ。
こうやって　甘えれてたり
こんな事ができてしまうのも、二人っきりの時だけですからね　」

「いつもは貴方の秘書艦で　先生　なんですし
んっ？　相当気に入ったのですね
そうですわね～
明日もちゃんと頑張れたら　してあげますから」

「ふふっ　よしよし　おおきな　赤ちゃんですね
んっ・・　いまは　みみかき　ですからね」

「とっても　いとおしいですよ
はぁ　んっ　もう少しで　終わりますからね」

「あら　ふふっ、、
まだ　甘えたいのは分かりますが　仕方ないですね。」

「あとちょっと　耳かきしますから
おわったらちゃんと寝る準備するのですよ？
お仕事は明日の朝にでも　一緒にしましょうか」

「はぁ　んっ　ふぅ・・んーーーんっ　ありますね
すこし我慢して下さいね？」

「んっ　んん　～はいっ
耳垢取れましたし
今日はおしまいです。
膝枕　もう少しですか」

「まだ私　お風呂はいってないんですよ？
流石に時間が時間ですから　その入っておきたくて、」

、

「大丈夫　あなたが頑張っていれば
ご褒美　ちゃんとあげれますから」

「んっ、お休みのハグですか
今日はあまえんぼさんですね。」

「いいんですか？先生なんですよー　わたくし」

「そう言いつつ　してしまうのですが、、んっ　ふ
あ、、汗臭くは　大丈夫ですか
よかった」

「吐息と〔1分強くらい〕」

「もう大丈夫ですわね。あんまり無理はしないでくださいね
少なくとも私が心配するので」

・耳元からはなれて声をだして会話する距離に移動

「また今度、明日もあるんですから　んっそうですね
やってあげます」

「わたしはお風呂に入ってきますので、あなたも時間を見て
あっ、明日の予定もあるので今日は添い寝しましょう寝坊された
ら困りますし、、いいですわね？
、、はいっでは行ってきますね」